

第1学年4・5組 保健体育科学習指導案

指導者 松枝 尚貴
場 所 体 育 館

1 単元 武道「剣道」

2 単元について

(1) 武道は、武技、武術などから発生した我が国固有の文化である。相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開することで、楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

剣道では、すり足や踏み込み足など非日常的な動きを主とするため、剣道の技術を習得することにおいて、運動能力で左右されることは少ない。そのため、ほとんどの生徒が同じスタートラインから学習を進めることができるとともに、運動が苦手な生徒においても、課題を達成し、できる喜びを味わうことができると考える。また、試合などでは、技が決まった際などにガッツポーズをすると取り消しになったり、拍手のみの応援を義務づけられていたりするなど、ルールやマナーとしても相手を尊重する姿勢を大切にしている。剣道に積極的に取り組むことを通して、武道の伝統的な考え方を理解し、礼儀作法や相手を思いやる態度を育成するのに意義のある単元であると考ええる。

(2) 本学級は、4組男子18名、5組男子18名の計36名で構成されている。体を動かすことが好きで体育の授業を楽しみにしている生徒も多い。また、話し合い活動では、自由な発想力を生かした独特な意見がたくさん出てきて、それを受け入れる雰囲気のある学級である。一方で、運動を得意としている生徒とそうでない生徒との差もかなりあり、二極化が進んでいる。剣道についてアンケートを実施した結果、経験者は3名、テレビなどで試合を見たことがある生徒は5名、全く見たことのない生徒は30名という結果が出ている。また、剣道に対して、痛い、防具を着けるのが大変、礼儀が厳しいというイメージを持っている生徒が多い。

(3) 以上のことを踏まえ、次の点に留意して指導を行う。

- ・ 本時の学習に興味を持って取り組ませるために、導入では前時の振り返りや技能習得のための反復練習を取り入れる。また、学習に見通しが持てるよう、生徒の意見をふまえて具体的な学習課題を設定し、生徒の目標を明確にする。
- ・ 剣道特有の楽しさやお互いの良さ、改善点に気付かせるために、固定した4人グループを体格差を考慮して設定し、チームとして活動させる。
- ・ 剣道で大切にされている「気・剣・体の一致」をもとに、「大きな声・正しい打ち・残心」を評価の視点におき、毎授業の振り返りができるようにワークシートを工夫する。加えて、グループ活動で対話する場を取り入れ、気づいたことや疑問に思ったことを話し合う時間を設定する。
- ・ 周囲から認められたり達成感を味わわせたりして自尊感情を高めるために、グループ内での意見交換や実技発表の場を設定する。

また、本時においては、上手く技を決めるためのこつを発見し、技を習得させるために、対話を取り入れたグループ活動を設定する。さらに、対話のきっかけを作るために剣道部員のインタビュー映像を用意し、グループ活動の際に効果的に利用する。

3 単元の目標

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、相手を尊重した行動をとろうとすることができる。
- (2) 課題を達成するために運動への取り組み方を工夫することができる。
- (3) 相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を打ったり受けたりすることができる。
- (4) 剣道の歴史や特性、防具や技の名称、有効打突などを理解することができる。

4 学習指導計画（全9時間）

時	1	2	3・4・5	6（本時）	7	8・9
学習課題	剣道について知り、剣道の動きに挑戦しよう。	基本的な動き方や、技の打ち方、受け方を身につけよう。	面、胴、面抜き、胴の打ち方、受け方を身につけよう。 （約束練習）	相手の動きに応じた面抜き、胴のタイミングを見つけよう。（条件付き自由練習）	相手の動きに応じて、面抜き、胴を決めよう。 （条件付き自由練習）	相手に合わせて攻防しよう。 （自由練習）

本時

5 本時の学習指導

(1)目標

- ・ グループ練習や話し合い活動に、積極的に取り組むことができる。
- ・ 相手の動きに応じて、面抜き胴を打つタイミングを見つけることができる。

(2)準備物

教師…剣道具（胴・垂）、竹刀、ソフトチャンバラ、ソフト剣、ホワイトボード、タイマー、
テレビ、ラジカセ、タブレット

生徒…学習シート、筆記用具

(3)学習指導過程

学習指導及び学習内容（学習形態）	○指導上の留意点 ◇評価（観点）〔方法〕
1 着装、準備運動、補助運動を行う。 （グループ・4人組） ・ 基本練習…竹刀 すり足→正面素振り→ 跳躍素振り→正面打ち ・ タッチ剣道…ソフトチャンバラ 15秒間で、打突部位を打てた回数 を競い合う。 2 前時の振り返りを行う。（4人組） 3 本時の学習課題を知る。（4人組）	○ 正しく素早く着装するために、グループ内で防具の点検、確認を行うよう指示する。 ○ けがを予防したり、親しみをもって剣道に取り組ませたりするために、準備体操と基本練習を兼ねた補助運動を、音楽に合わせて行う。 ○ 正しい打突を身に付けさせるために、自然体や体さばき、竹刀さばきを意識させる。 ○ 「気剣体の一致」を意識させるために、打突した際は打突部位をはっきり言うよう指示する。 ○ 恐怖心を取り除き、安全に攻防する楽しさを味わわせるために、ソフトチャンバラで行うよう指示する。 ○ 約束練習と自由練習で面抜き胴をさせ、相手の動きに応じることの難しさに気付かせる。
目指せ！一本！！ 相手の動きに応じた面抜き胴のタイミングを見つけよう。	
4 条件付き自由練習を行う。 （グループ） ・ 体育館を8コートに分けて行う。 ・ 4人組のうち、2人が条件付き自由練習を行い、残りの2人が助言をする。 ・ 面を打つ人はソフト剣を、胴を打つ人は竹刀を用いて行う。 ・ 段階に応じて、両方とも竹刀で行う。	○ うまく相手の動きに応じることができる方法を考え、ホワイトボードに書くよう指示する。 ○ 最初は、打たれるという恐怖心を取り除くために、面を打つ人はソフト剣を使用するよう指示する。 ○ 気剣体が一致していない生徒には、何が足りないかを助言する。 ○ 活動がうまく進んでいないグループには、教師がタブレットを使い、客観的に自分たちの動きを確認させ、対話のきっかけづくりをする。 ○ 全体の活動の様子を見ながら、考えを収束させるために事前に用意しておいた剣道部員のインタビュー映像を視聴させる。
5 本時の振り返りを行う。 ・ 4グループずつ実技発表を行う。 （グループ） ・ ホワイトボードに考えをまとめる。 （グループ） ・ 本時の振り返りを行う。（個人）	◇ グループ活動の中で、自らの役割を果たし、なかまの学習を援助したか。（関心・意欲・態度）〔観察〕 ◇ 相手の動きに応じて、面抜き胴のタイミングを見つけることができたか。（思考・判断）〔ワークシート〕
6 防具の片付けを行う。（グループ）	○ 身を守る防具に感謝の気持ちを高めさせるためにも、素早く丁寧に片付けさせ、グループごとに点検、確認をさせる。